

あゆの1びょう

第2巻

安斉 純一

とても天気の良い晴れた日の朝のこと。

あゆが水玉を楽しく観察していたところ、突然、水玉の中に入ってしまった。

そこにはゴールズという黄金色の存在がいて、あゆときらりりワールドとの不思議な関係を伝えた。

水玉世界はきらりりワールドと呼ばれていて、とても美しくて儚い世界だった。

今回入ったきらりりワールドは、たった1秒で消えてしまう、とても儚い世界だったからです。

でも、極彩色に彩られた世界は、まるで夢の国でした。

そこには無数の存在、住人たちが居て、きらりりワールドを大切にしていました。

しかし、我々人間の重たくて汚れた心が、水を汚すため、彼ら住人たちを病気にさせてしまっていたのだ。

そこで、あゆは、ある存在に出会い、自分の中にある不思議な力、『閃光力』という能力に目覚め、彼らを救う。

現実に戻ったあゆは、あるはずがない一枚の金色の羽を手になっていた・・・

あゆがきらりりワールドに居た時間は、たった1秒だった。

しかも、あゆは、現実に戻ると、そこで経験したことを、ほとんど覚えていなかった。

あゆは、人間として、初めてきらりりワールドに入った、唯一の証人である。

そして、水玉を観察していたあゆは、再び、きらりりワールドへ突入していく・・・

きらりりワールドの冒険の始まりです。

☆とうじょうじんぶつの しょうかい☆



ぼくは 6さい おとこのこ。

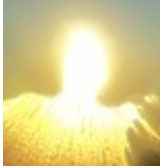
なまえは みずき あゆ。

すきなことは はとと あそぶこと。

ゆめは みずたまのなかに はいって たんけんすること。

さいきん おもったことは ゆめは じぶんで かえられる。

けしきの いろも いやなことも ぜんぶ かえちゃうよ。



ねんれいは きらりわーど の じかんで 26,000さい。

なまえは ごーるず。

きらりわーど の ばんにん。

そして きんぐついんくるさまの しゅごしゃ。

いつも きんぐついんくるさまの となりで まもっている。

きんぐついんくるさまのためなら どんなに きけんなときも

いのちをかけて まもっている。

ほんものの あいと やさしさを もっている ゆうしゃ。



ねんれいは きらりわーど の じかんで 3,800,000,000さい。

なまえは たいようのえがお。

きらりわーどを えいえんに ずーっと あかるく てらす やくめがあります。

あい は わたしから きらりわーどへ ながれて いきます。



わーっ まぶしいなあー

あゆは きょうも はやおきして さんぽに でした。

いつものように みずたまの かんそくを はじめていた あゆですが・・・



ふしぎだなあ・・・

どうして みずたまは はっぱに くっついているのかあ・・・

ななめになっている みずたまが したに おちないので しばらく じっと
みていました。

すると・・・



はっぱの したに くっついているのも いるぞ。

なんで まるいのかなあ・・・

あなかが すいたなあ。

いま なんじ かな。

5 じ 59 ふん 59 びょう



そう おもったら まわりが きゅうに きらきらと
かがやきだしました。

すごい はやさで どんどん ひかりが むかってきました。
このまえと おなじように ひかりが やってきました。



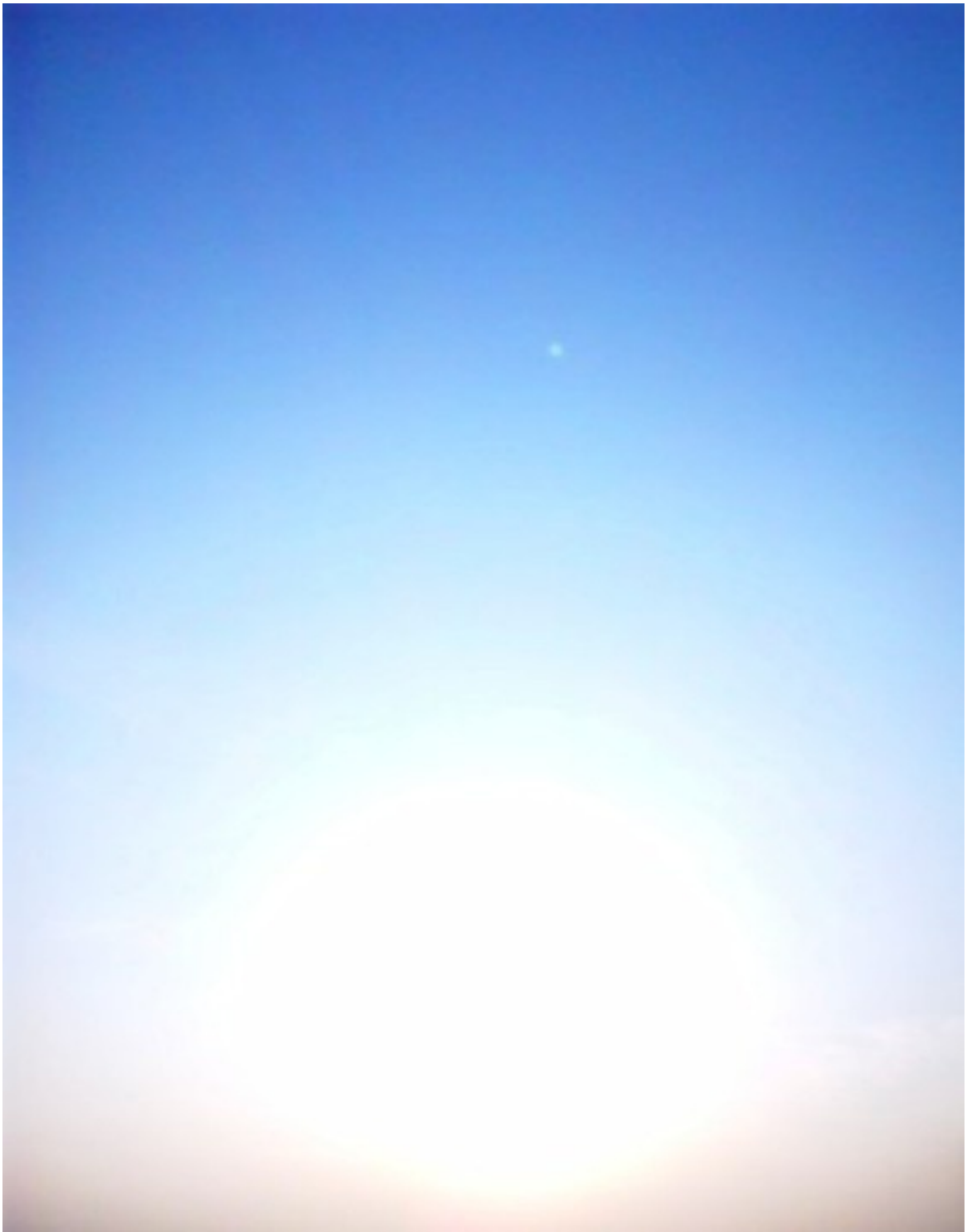
だんだん まわりが しろく あかるく なってきました。
とても しあわせな きもちに なってきて
なみだが どんどん あふれてきて からだが じんじん してきました。



すると まわりが ぜんぶ まっしろに なってしまい なにも みえなくなってしまうました。

どのくらい じかんが すぎたのでしょうか。

あゆは そう一っと めを あけました。



うわぁー！　なんて　きれいなんだろう！

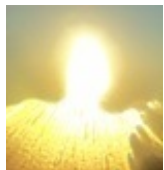
あゆは　あまりにも　うつくしい　けしきに　かんどうして　しばらく　うっとり
していました。

それも　そうです。

だって　あゆは　もう　みずたまの　なかにいるのですから。

きらりわーるどは　とても　うつくしい　せかいなのです。

すると あゆが とても よく しっている こえが きこえてきました。

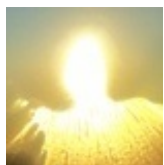


おまちしておりました。

きんぐついんくるさま。



ごーるず！ あいたかったよー！！

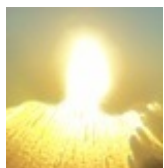


はははは わたしもです きんぐついんくるさま。

ふたりは おもわず だきついて しまいました。



ごーるず いままで どこに いったんだい？



はい それを せつめいするのは かなり むずかしいことです。

いまの あなたさまには ざんねんながら わかって もらえないでしょう。

すこしずつ おはなし していきましょう。

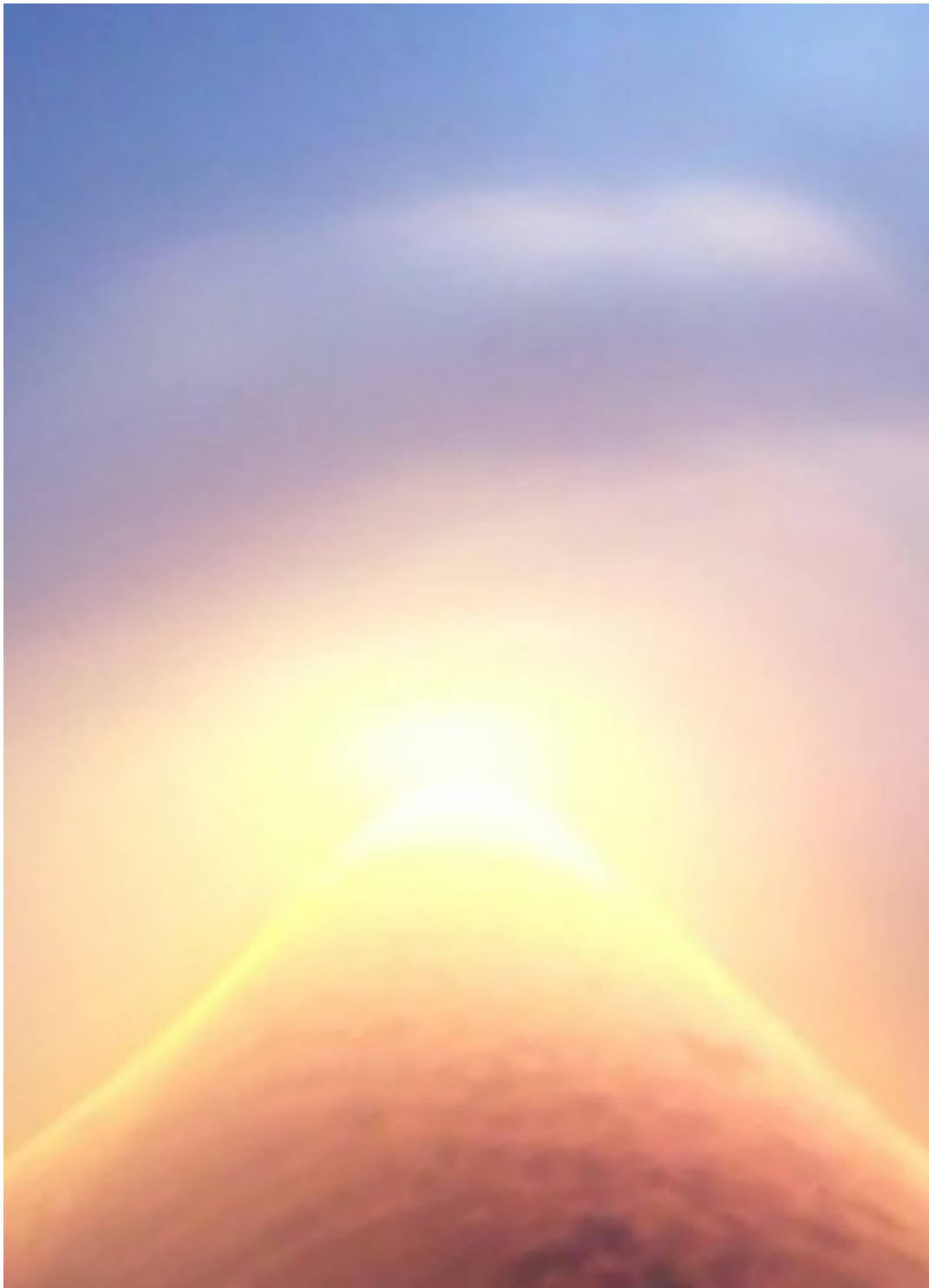
それより いまから あなたさまは たいようのやまで とても くだいなかたに
おあいする ことになります。

では しゅっぱつしましょう。

ふたりは いっしょに たいようのやま というところに むかって まっすぐ
とんで いきました。

きらりわーどは みずの なかなので およぐというのが ただしいのですが
ところが きらりわーどでは とんでいるのです。

これも きらりわーど の ふしぎの ひとつなのです。



しばらくすると かがやく たいようが のっている やまが みえてきました。



まぶしいねー！



はははは あそこに いらっしゃるかたが みえますか？



わあーっ！ おおきな ひかりの かおが わらってるよー！
あのひとに あうために たいようのやまに きたんだね。

すると そのひとが だんだん あゆに ちかづいてきました。



きんぐついんくるさま やっと おあいできましたね。

あなたさまに おあいできて たいへん こうえいです。

きーらーりー．．．．．

くらやみに すんでいた わたしに あなたさまは いつも えがおでいなさいと
あいの ことばを あたえて くださってから きらりわーるどは
3,800,000,000ねんになります。

あなたさまの げんじつせかいでは たった 1びょうですが。



えーっ、どういふことなの？

このひとが ふしぎな じゅもんを となえはじめました。



きーらーりー、きーらーりー、きーらーりー。

しばらくすると たいようのやまが おうごんしょくに なって
すべてが きんいろに かがやき はじめました。
ふと あゆが かこを おもいだしました。
しぜんに ことばが でてきました。



たいようのえがおよ。

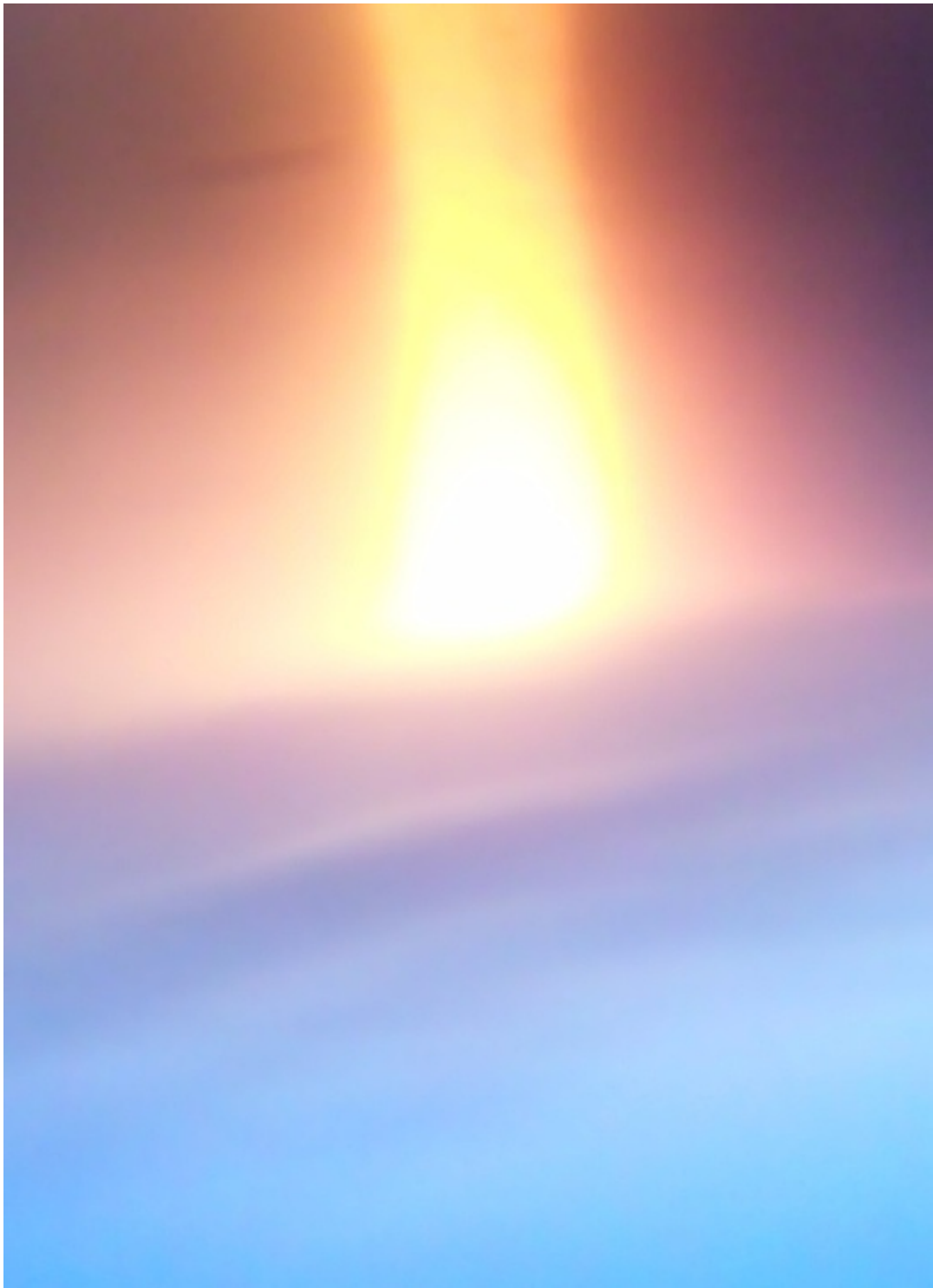
そなたは すべての いのちの みなもとである。
そして そなたは あい である。
すべての いのちを かがやかせて まもり つづけるがよい。
そなたは わたしと ともに いきつづけるのだ。
きーらーりー
この ことばを そなたに えいえんに さずける。



あゆは ほんとうの じぶんを おもいだし
たいようのえがおに あたえた ことばを おもいだしたのだ。
すると あゆは ひかりの はしらになって きょうれつな きらめきで
きらりわーんど ぜんたいを てらしはじめた。



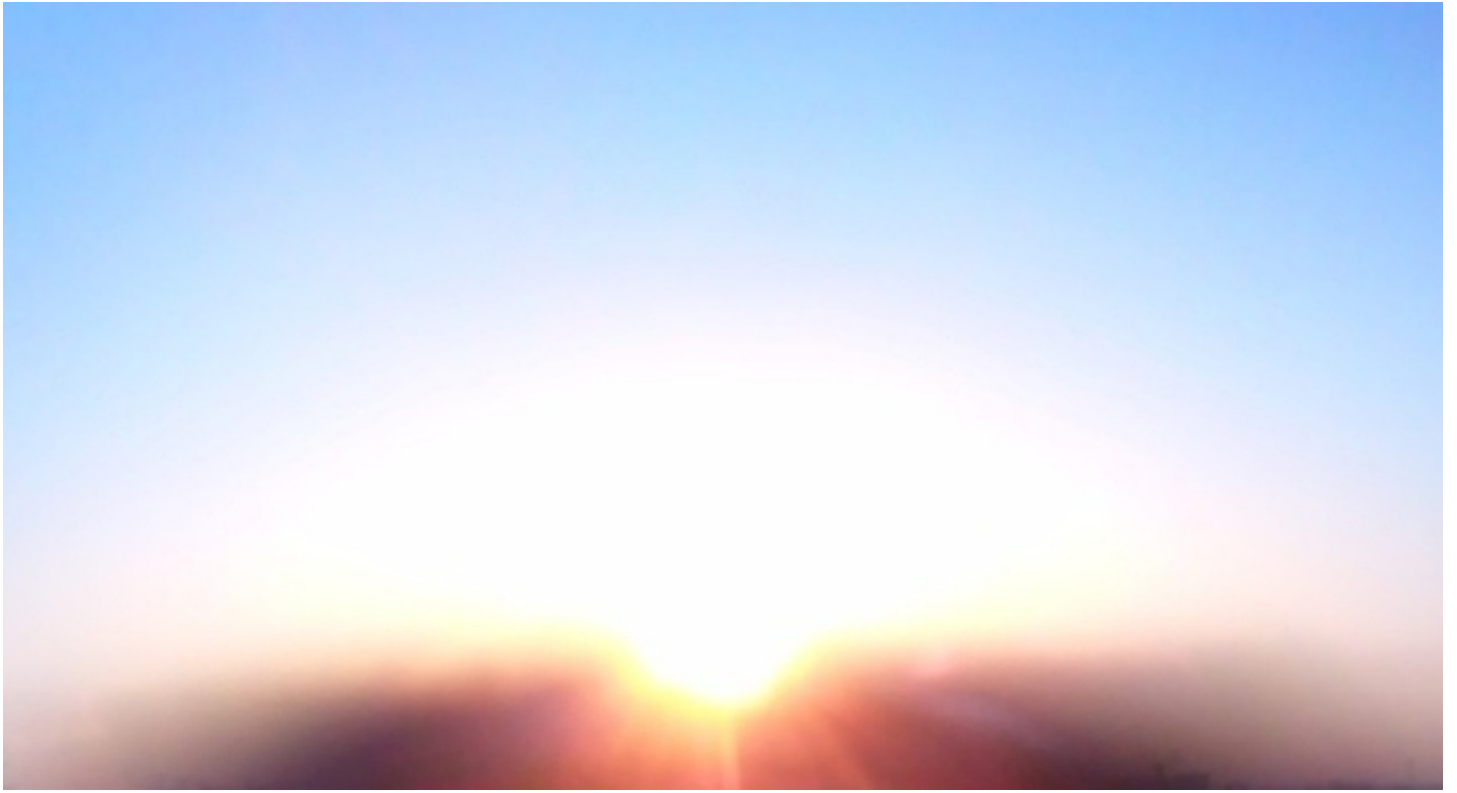
きんぐついんくるさま この きらめきは げんじつせかいにも
えいきょうを あたえております。
このきらめきは あい そのものです。
いつくしみ そのものです。



きんぐついんくるは はしらのちからで げんじつせかいの みずに
いやしの ちからを あたえはじめました。
はしらは ひとしずくの みずたまに つきささり ちきゅうぜんたいに
あいの いやしの ちからを あたえはじめたのです。



きんぐついんくるさま それが ほんものの あいの ちから。
ひとしずくの ちから せんこうりよく ですね。
きらめきは あなたさま そのものです。
わたしは あなたさまから その ちからを さずかって
すべての いのちを まもりつづけております。



きんぐついんくるは また すがたを かえはじめました。

ふらっしゅどーむです。

したのほうから きんいろに かがやく さかなが やってきました。



きんぐついんくるさま。

いままで びょうきで うごけませんでした が きんぐついんくるさまの
おちからで わたしたちは いきかえりました。

ほんとうに ありがとうございます。

せんこうりょくが げんじつせかいに はたらいたのです。

だから さかなたちの びょうきが きえて げんきを とりもどしたのです。



あなたさまは きらりわーるどの そうぞうしゅなのです。

いま ここに あなたさまが いらっしゃることは きせきです。

しかし あなたさまは まだ かんぜんな きんぐついんくるさまでは ありません。

これから なんども きらりわーるどに おこしいたいて かならず

ほんとうの あなたさまを おもいだす ことになります。



そうぞうしゅ という ことばで きんぐついんくるは そら いっぱいに
にじを つくりました。



どこまで いっても そらは はてしなく にじです。
かぞえられないほどの にじが つらなって にじの てんじょうに
なっているのです。
これが きらりわーるどの きわめつけの うつくしさ なのです。
このような ことを いままで けいけんした ことがない じゅうにんたちは
あまりにも うつくしい そらを ながめて かんどうし ずっと なみだを
ながし つづけました。



さらに きんぐついんくるは そらを いやしの そらいろに かえはじめました。

とても あたたかみのある しあわせな そらいろです。

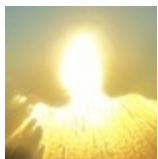
きらりわーるどの じゅうにんたちは うっとり ながめているだけで
いやされ つづけています。

きんぐついんくるの ちからは いろや かたちを かえただけでは
ありません。

すべての いのちあるものに いきる えねるぎーを あたえていたのです。

こんどは まうえに きいろい あたたかな やさしさの えねるぎーです。
きいろで いっぱいの そらが かんどうで むねいっぱいに してくれました。

じゅうにんたちは もう まんぞくして やすらかな きもちです。



きんぐついでんくるさま おかえりの じかんが まいりました。
あなたさまの おかげで この きらりわーるとは そんなじかんが
ながくなりました。
あなたさまは つぎの きらりわーるとへ むかわなければ なりません。



そうだね ごーるず。

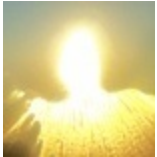
だんだん ぼくのことを わかってきたよ。

この おうぎの かたちの ぼくが このせかいの そうぞうしゃ だってことも
よく わかったよ。

ぼくは みんなを あいしているのも よく わかった。

でも ぼくの ほかにも そうぞうしゃが いるのも かんじてるよ。

どう？ そうなんですよ？



さすが きんぐついんくるさま そのとうりです。

みずたまの かずだけ あなたとおなじ べつのあなたが そんざいしています。

あなたさまは その べつのあなたたちに このせかいのことを しらせる
ことになるでしょう。

ひとしずくの なみだには はかりしれない あいが あります。

その ひとしずくの かずだけ べつのあなたが そんざいするのです。

いかがでしょうか きんぐついんくるさま。

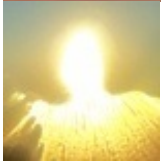
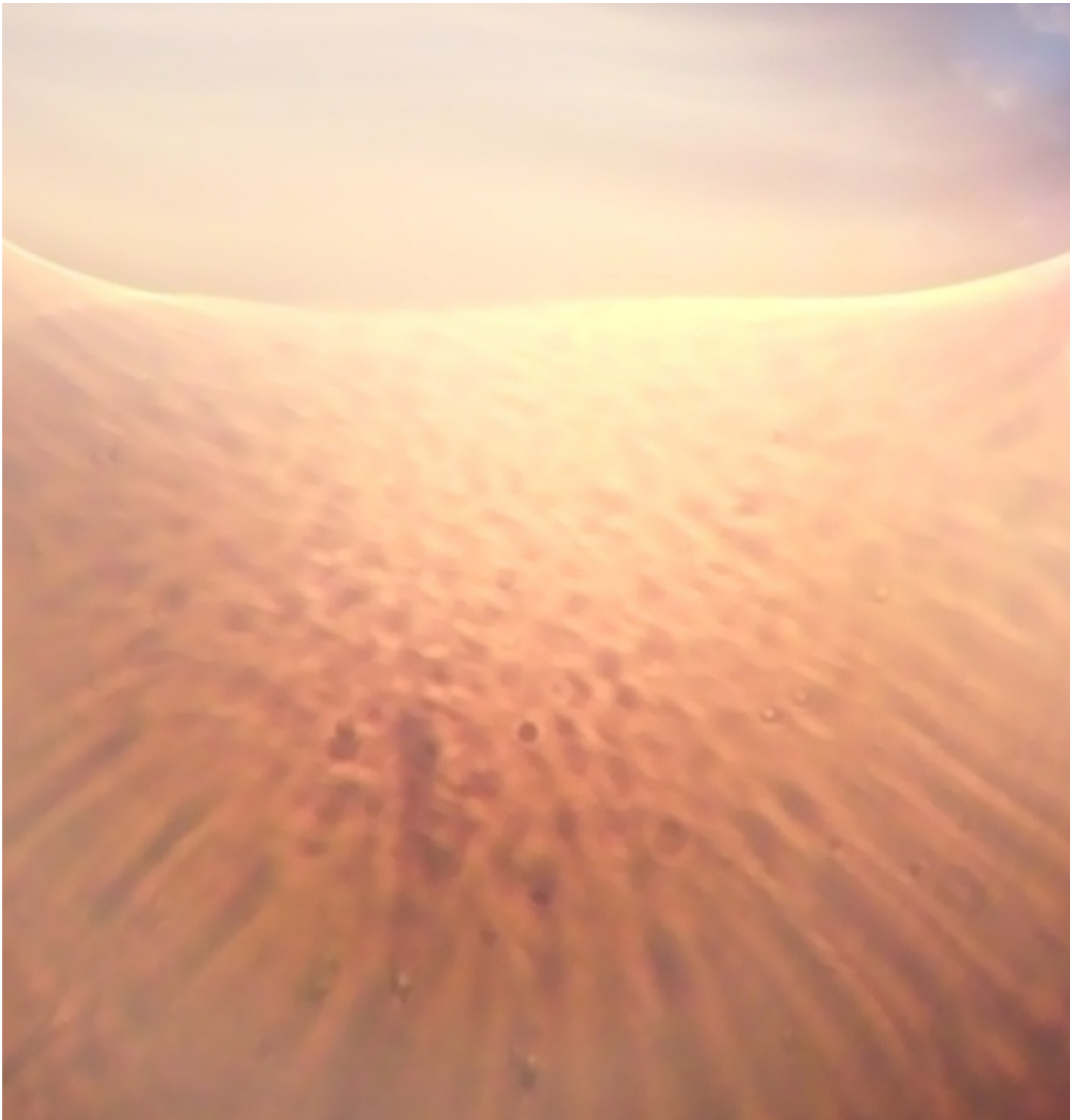


そうだね ごーるず。

やっぱり おもったとうりだよ。

だって たった ひとりの そうぞうしゃなんて つまらないからね。

ぼくは ほんとうの じぶんの ふるさとが どのなのか わかった きがするよ。



あの　ちへいせんの　むこうが　げんじつせかいです。

この　あれたような　ひろい　みちは　げんじつせかいの　ひとたちが
つくりだした　きょうふや　はかいで　つくられたものです。

いつか　あなたさまは　この　ひろい　あれた　みちを　うつくしい　みちに
つくりかえることに　なります。

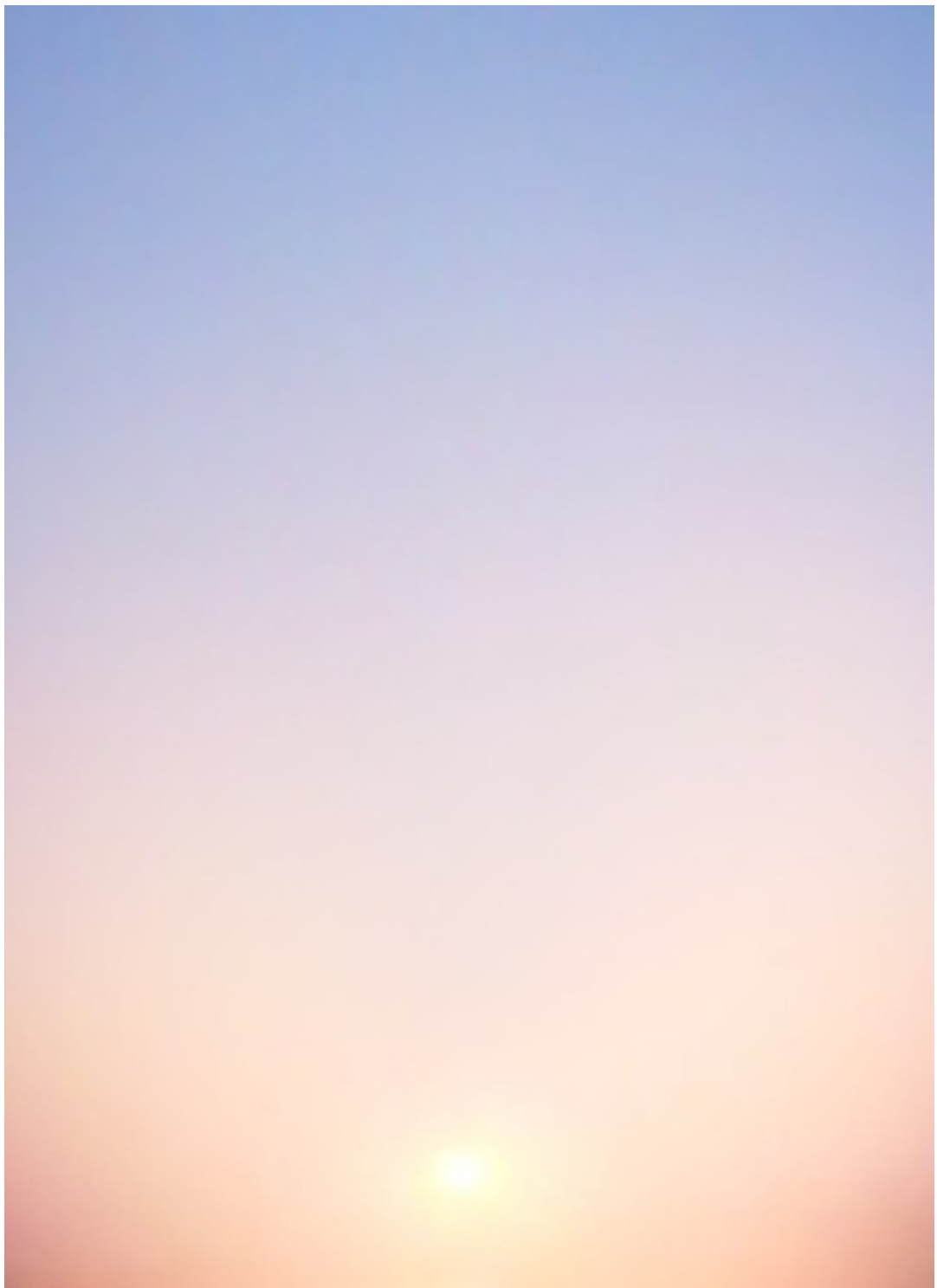
ふたたび　あなたさまと　おあいできる　ひまで　こちらのせかいで
おまちしています。

きーらーりー



ごーるずが　じゅもんを　となえた　とたんに　あゆは　ころろが
とおくに　いってしまうような　かんじに　なってきました。

めのまえの　くうかんが　ゆがみはじめて　どこかに　いきよいよく
とばされていきます。



あーっ ぴんくの ゆうやけだー

なんて きれいなんだろう



すると・・・

めのまえが まっしろに なってきました。

あゆは あたまが ぎゅーっと しめつけられるような いたみに
だんだん おそわれてきました。



でも なぜか なみだが ながれてきました。
それなのに しあわせな きもちで いっぱいです。



ところが からだが どんどん おもたくなってきました。



5 じ 59 ふん 59. 99999 . . .

6 じ 00 ふん 00 びょう

あれっ!?

なに この へんな かんじは?



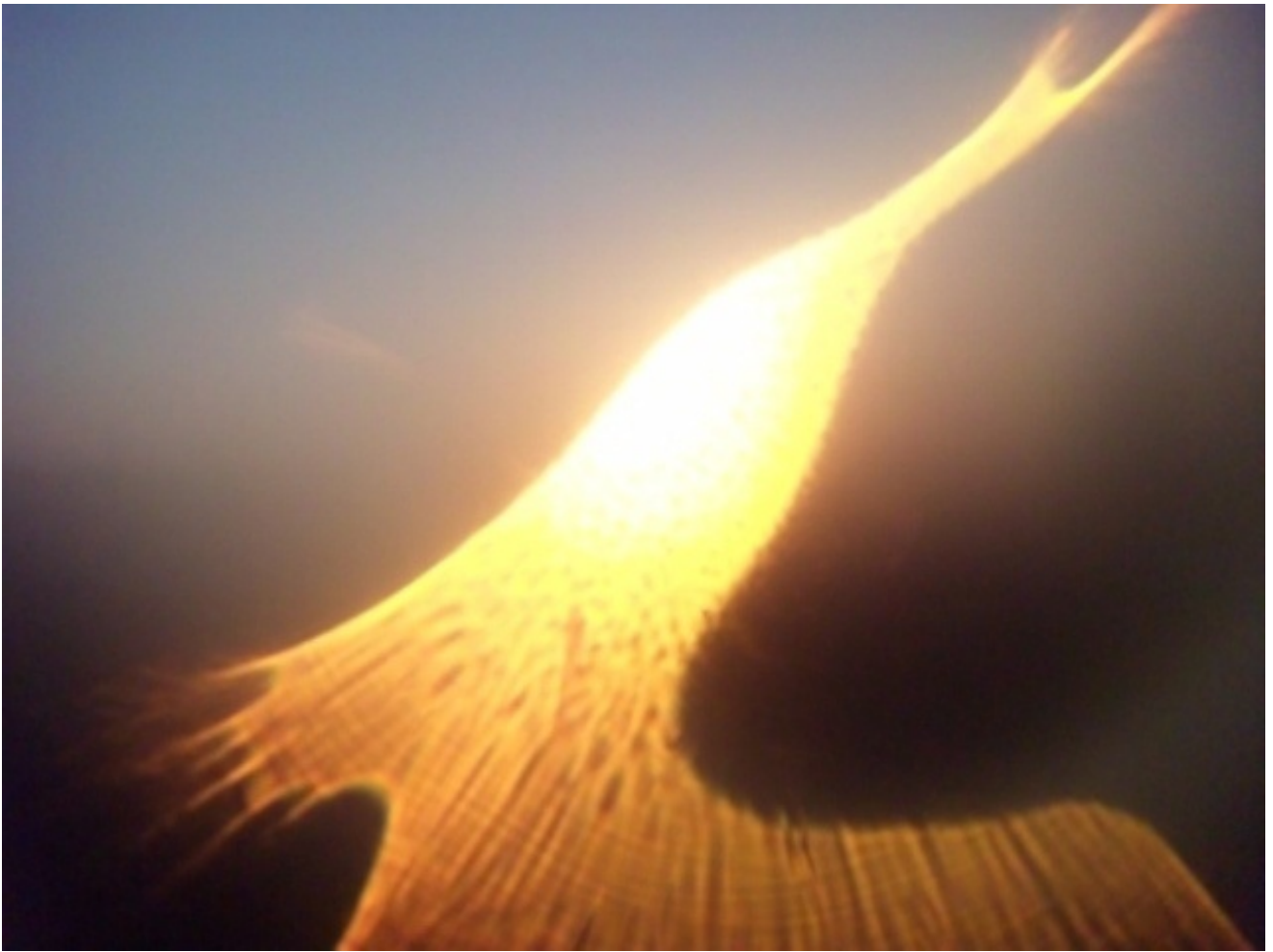
あれっ？

このまえも 1びょうの あいだに ゆめを みていたなあ。

ごーるず そうそう ごーるずだよ！

き ら り だったっけ。

あゆは このまえのことを おもいだし ゆっくり てのひらを
あけてみた・・・



てのひらには やっぱり きんいろの はねが いちまい ありました。

そして ほっぺたには ひとしずくの なみだが ありました。

あとがき

あゆの1びょう 第2巻をお読みいただきまして、ありがとうございました。

みずたまは、触れると直ぐに破壊してしまい、跡形もなくなってしまいます。
その脆さの中には、とても美しい景色が存在しています。

なかでも夜のみずたまは、とても繊細で、極めつけの美しさがあります。

私は、その美しさを、小さな子供たちに、肉眼で見えていただけるようにしていきたいと、心より願っています。

しかし、その前に、この童話風の写真集で、水玉の中に潜む、優しさや愛や慈しみといった、捉える事の出来ない真実を発見していただきたいと思って、今回も執筆してみました。

素晴らしい世界がやって来ることを願って・・・

著者

安斉 純一

あゆの1びょう 第2巻

<http://p.booklog.jp/book/36894>

著者：安斉 純一

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sizukusama/profile>

安斉純一 メールアドレス

mizutamatwinklingukirari@yahoo.co.jp

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36894>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36894>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.